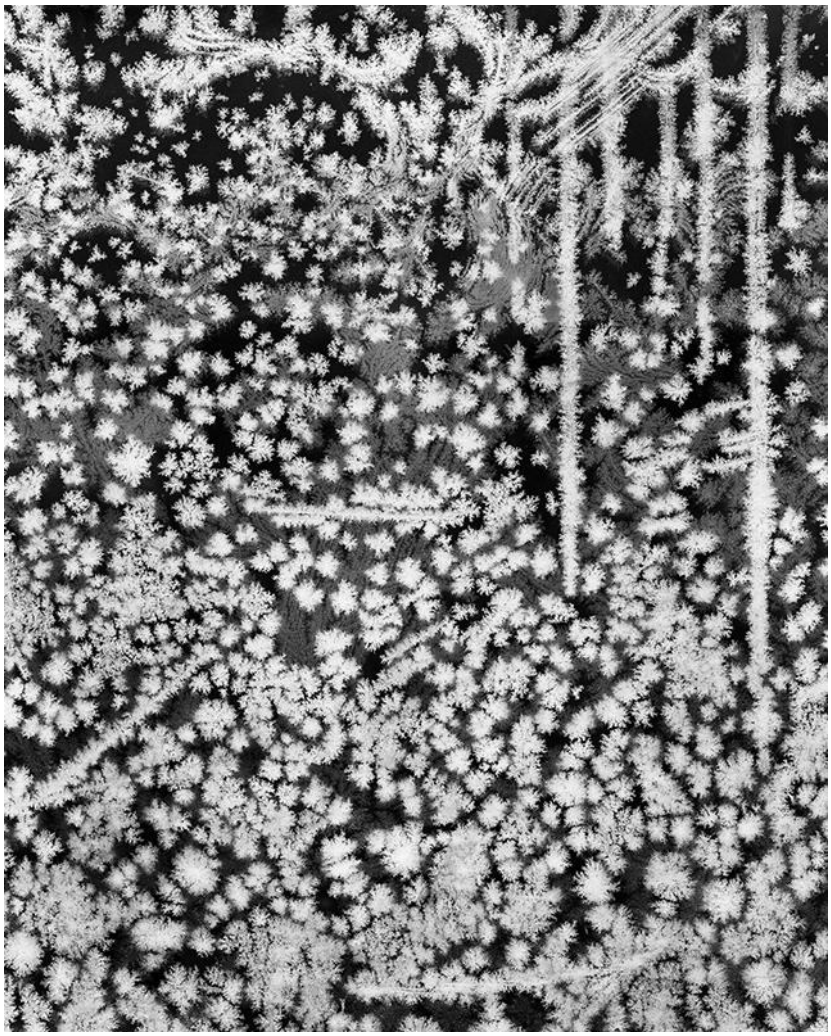
[プレスリリース]

2023/12/20

米田知子「氷晶」

2024 年 1 月 13 日(土) – 2 月 24 日(土)



米田知子《氷晶 VIII》2023, gelatin silver print, image: 35.4x28.4cm, ed.15

厳冬の凍てつく夜、時に姿を現し、日が登る早朝にはひっそりと姿を消すーこの氷の結晶は、繊細で、微かな温度の上昇、湿度の変化によって消え去ってしまいます。この自然が描く氷の模様は、予期なく現れる、偶発的ドローイングです。極地方で見られるオーロラも、太陽と大気周縁の影響を受けて予期なく現れ、空を照らします。これら自然現象は荘厳であり、存在し続ける生のエネルギーの本質の象徴であるでしょう。一瞬に美を放つクリスタライズされた生ー我々が今、生きている過酷な世界と相反しながらも自然は我々の周りで息づいています。

2023 年 12 月　米田知子

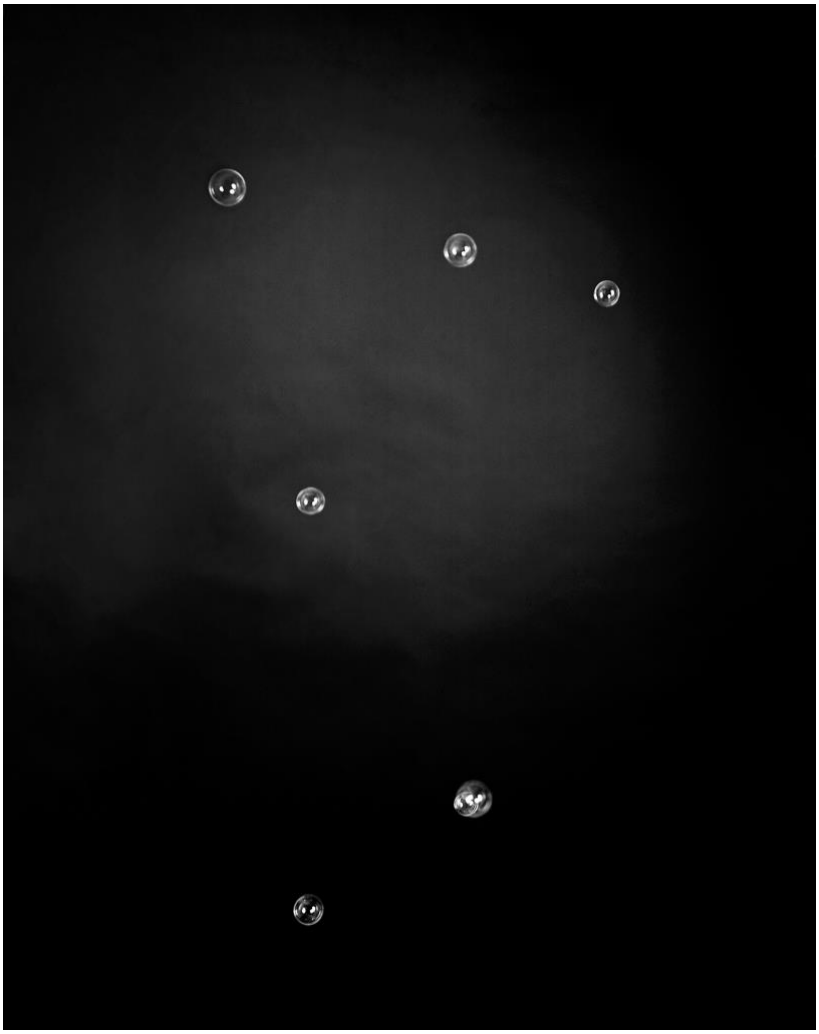
20 世紀の波に翻弄された人物の内奥に迫る「見えるものと見えないもののあいだ」、かつてそこに発生した出来事の痕跡を切り取る「Scene」など、米田知子の作品は常に歴史性や場の記憶と深く結びついている。そしてその制作の根底には人類を含めた生に対する真摯な想いと平和への切なる願いがあるということは思いのほか語られてこなかった。今展は米田が自然界の儚くも雄大な存在にフォーカスを当て、「私たちは皆、制御不能な大きな一体感の中にいる小さな存在」であることを示唆する作品で構成されている。

米田知子《オーロラ VI》2013/2023, chromogenic print, image: 19x19cm, ed.25

2013 年から 23 年までに撮影された氷晶シリーズはフィンランドの凍てつく寒さの中で撮影されてきた。これらの小さな氷の結晶は少しの環境の変化で消えてしまうが、繰り返しその姿を地上に現すという自然のサイクルを感じさせる存在でもある。同じくシベリア鉄道旅行中に撮影した「氷晶、シベリア I・II」(1998/2023)、ラップランド（フィンランド）・キルピスヤルヴィ村で撮影された Aurora シリーズ、17 世紀絵画でヴァニタス（虚栄）の象徴として描かれるシャボン玉をモティーフとした作品など約 24 点が初披露となる。

様々な人々の記憶や歴史の痕跡の撮影を続けた米田は常に自然を通した生への眼差しを持ち続けてきた。普段と異なる米田作品の魅力にどうぞご期待ください。

2023 年 12 月　シュウゴアーツ



米田知子《シャボン玉 I》2023, gelatin silver print, image: 24x19cm, ed.15

米田知子「氷晶」

会期：2024 年 1 月 13 日（土）– 2 月 24 日（土）
会場：シュウゴアーツ
開廊時間：火～土曜 11:00 - 18:00 （日月祝休廊）
担当：石井美奈子

クロージングレセプション

日時：2 月 24 日（土）17:00 – 19:00

米田知子関連展覧会・イベント

「動物園にて ―東京都コレクションを中心に」展

会期：2023 年 11 月 16 日（木）– 2024 年 1 月 8 日（月・祝）
会場：東京都美術館
展覧会 web サイト：https://www.tobikan.jp/exhibition/2023_collection.html

「回復する」展

会期：2023 年 12 月 23 日（土）－2024 年 3 月 10 日（日）
会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
展覧会 web サイト：https://www.mimoca.org/ja/exhibitions/2023/12/23/2929/

「記憶：リメンブランス ―現代写真・映像の表現から」展

会期：2024 年 3 月 1 日（金）– 6 月 9 日（日）
会場：東京都写真美術館
展覧会 web サイト：https://topmuseum.jp/contents/exhibition/index-4548.html

アーティスト・トーク　米田知子 × マルヤ・ピリラ
－独特な手法で注目される日本とフィンランドの写真家による対話－

日時： 2024 年 3 月 2 日（土）13:30 ～ 15:30
会場：東京都写真美術館　1 階ホール
参加費：無料

*開館時間及び詳細につきましては、各美術館 HP よりご確認ください。

米田知子

1965 年 兵庫県生まれ、ロンドン在住。20 世紀のイデオロギーをテーマに、徹底した対象へのリサーチを重ねる米田知子はこれまでに戦争や震災の傷跡が残る日本国内以外にもヨーロッパ、東欧、アジアなど幅広い地域において記憶が強く残る場所に訪れて制作を続ける。写真を通して土地やものに宿る歴史的真実に迫り、詩的な感性をたたえた情景の背後に幾層にも重なる記憶を呼び起こす。
主な展覧会に「DMZ exhibition : Checkpoint」（坡州市／漣川郡、2023)、「残響―打ち寄せる波」シュウゴアーツ（東京、2022)、「Tomoko Yoneda」マフレ財団（マドリッド、2021)、「アルベール・カミュとの対話」シュウゴアーツ（東京、2019)、第 12 回上海ビエンナーレ（上海、2018-19)、「アルベール・カミュとの対話」パリ日本文化会館（パリ、2018)、「ふぞろいなハーモニー」広島市現代美術館（広島、2015）/ Kuandu Museum of Fine Arts（台北、2016)、光州ビエンナーレ（光州、2014)、あいちトリエンナーレ（愛知、2013)、「暗なきところで逢えれば」姫路市立美術館（兵庫、2014）/ 東京都写真美術館（東京、2013)、「キエフビエンナーレ」（キエフ、2012）;「Japanese House」シュウゴアーツ（東京、2011)、「終わりは始まり」原美術館（東京、2008)、第 52 回ヴェネチア・ビエンナーレ（ヴェネツィア、2007)、「震災から 10 年」芦屋市立美術館博物館（兵庫、2005)、「記憶と不確実さの彼方」資生堂ギャラリー（東京、2003）など。

シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木6 丁目5 番 24 号 complex665 2F / 03-6447-2234
担当：石井 minako@shugoarts.com プレスに関するお問い合わせ：石井・藤田 gallery@shugoarts.com

◆シュウゴアーツ アーティスト情報はこちらをご覧ください：https://shugoarts.com/topics/